平成30年度 厚生労働科学研究費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)
分担研究年度終了報告書

社会的ハイリスク妊婦の把握と切れ目のない支援のための保健･医療連携システム構築に関する研究

分担研究課題

「社会的ハイリスク妊婦の支援と連携に関する手引書」の作成

研究分担者 片岡 弥恵子 学校法人 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 教 授
研究協力者 大塚 公美子 学校法人 聖路加国際大学大学院 看護学研究科

【研究要旨】

社会的ハイリスク妊婦への支援は、自治体及び医療機関で差があり、標準化されていない現状がある。本研究の目的は、社会的ハイリスク妊婦への切れ目ない支援を実現するために、主に医療者に向けて連携･協働を主眼とした支援の内容及び方法を示した「社会的ハイリスク妊婦の支援と連携に関する手引書」(以下、手引書と示す)を作成することである。手引書の作成は、産婦人科医師 1 名、助産師 2 名で構成案を考え、専門家の意見を聴取し修正しコンセンサスを得た。その結果、手引書は、6 章から構成され、社会的ハイリスク妊婦の定義、支援に必要な基礎知識、連携する機関、職種の紹介、事例を用いての具体的支援方法の提示、社会的ハイリスク妊婦の様々な状況、用語集、関連する法律･制度を含めた。現在、担当者が執筆を行っており、今後医療者が理解しやすく、そして有効に活用できる手引書の作成を行っていく。

A. 研究目的

社会的ハイリスク妊婦は、「出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められている妊婦」である特定妊婦を含む概念であり、虐待のリスクが高く、将来的に養育困難が予測される。社会的ハイリスク妊婦は、複雑な問題を抱えていることが多く、妊娠期から出産、産褥･育児期まで切れ目のない継続的な支援が欠かせない。

妊娠期から育児期まで切れ目のない支援を実現するためには、医療機関、地域の連携、多職種での協働が必須である。妊娠届、母子手帳の配布時において各自治体では特定妊婦を把握し、妊娠期から産褥期までは主に医療機関にて関係性を構築しながらフォローし、育児期には自治体につないでいく。このような支援の流れは、実際には標準化されておらず、支援の内容及び方法に大きな差があることがわかっている。全国どこでも、妊婦を正確なアセスメントにより社会的ハイリスク妊婦を把握し、切れ目のない継続した支援を展開するためには、標準的な方法を具体的に示した手引書が必要である。

本研究の目的は、社会的ハイリスク妊婦への切れ目ない支援を実現するために、主に医療者

に向けて連携・協働を主眼とした支援の内容及び方法を示した「社会的ハイリスク妊婦の支援と連携に関する手引書」(以下、手引書と示す)を作成することである。

B. 研究方法

1. 手引書の作成方法

手引書の作成は、まず、産婦人科医師 1 名、助産師 2 名によってその構成を検討した。基本的な知識に加え、できるだけ具体的に支援の方法を示すことを目指した。作成した手引書構成案は、各専門家への意見聴取、修正をコンセンサスが得られるまで繰り返した。

C. 研究結果

1. 手引書の構成

手引書の構成を表に示した。手引書は、6 章から構成される。第 1 章は、社会的ハイリスクの定義とした。社会的ハイリスク妊婦の定義に加え、頻度、リスク因子を示し、実際に推奨されるスクリーニング/アセスメント方法について記述する。第 2 章は、社会的ハイリスク妊婦の支援の全体像を図に示す。さらに、支援に関わる職種について、活動内容、特徴、得意とする活動、どのように連携できるかなど具体的にわかるよう記述する。お互いの職種について知ることは、連携の第 1 歩となる。第 3 章は、社会的ハイリスク妊婦の支援の具体例について、医療機関での支援、地域での支援、そして連携の実際について示す。連携の実際は、事例を用いて解説する。第 4 章では、社会的ハイリスク妊婦の置かれる様々な状況について解説する。予定外の妊娠、メンタルヘルスに問題を抱える妊婦、ドメスティック・バイオレンスなどを取り上げる。支援をする上で必要な知識も付与する。第 5 章は、用語集とし、多職種が共通言語となる用語について解説する。第 6 章は、社会的ハイリスク妊婦に関連する法律及び制度をまとめる。

表　社会的ハイリスク妊婦の支援と連携に関する手引書

章	
1	社会的ハイリスク妊婦の定義、頻度、リスク因子、スクリーニング/アセスメント
2	職種・多機関連携による社会的ハイリスク妊婦への支援 ・支援の全体像 ・関わる機関、職種の活動内容/特徴/アクセス (医師、助産師、看護師、保健師、MSW、社会福祉士、児童福祉士、保育士、母子保健推進員、養護教諭等)
3	社会的ハイリスク妊婦の支援 ・医療機関での支援 ・地域での支援 ・連携・協働の実際
4	社会的ハイリスク妊婦の様々な状況 予定外の妊娠、メンタルヘルスに問題を抱える妊婦、ドメスティック・バイオレンス等
5	用語集
6	法律・制度

2. 手引書の執筆者

それぞれの章について、専門的な知識、支援の実際について熟知した支援者に依頼した。
執筆者は、合計 10 名となった。

D.　考察

現在、手引書の執筆を行っている。手引書は、基本的な知識を得ることができると同時に、事例等を用いて実際的な支援や連携の方法が理解できる内容とする。さらに、図や表を使い、多忙の実践の場においてわかりやすく示すよう工夫する。医療者が、臨床においてすぐに手に取り、活用できるような手引書を目指す。手引書は、毎年に改訂していく予定である。

E.　結論

社会的ハイリスク妊婦への切れ目ない支援を実現するために、「社会的ハイリスク妊婦の支援と連携に関する手引書」を作成している。手引書は、6 章から構成され、専門的な知識と支援の経験を持つ専門家に執筆を依頼している。多忙な実践の中で、医療者が活用できるような工夫を取り入れる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H.　知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし